

+++++

「植物と人々の博物館メールマガジン」 第47号 2018年9月7日発行

+++++

異常な猛暑日には参りました。暑くて、午前中しか働けませんので、とても畑の準備が間に合いません。その上、イノシシやハクビシン、さらにはカラスに、スイカ、メロン、カボチャ、トウモロコシなどを食害されて、がっかりです。サクライチゴ、ワラビが旺盛に侵入してきて、山の畑は遷移が進んでいます。自然の営みにかなわず、いずれ放棄することになるのでしょうか、それでもどこまで抵抗できるのか、頑張ってみます。雑穀見本園の生育は良好で、みな出穂しました。キュウリ4品種、ズッキーニ2品種、トマト4品種などの生育は良く、家族以外にもおすそ分けできるほどに収穫できます。それなりに喜んでいただいているようです。ジャガイモは、インカのめざめは早く掘り取り、在庫は芽が出始めました。男爵とメークインはまだ土の中にかなり保存していますが、そろそろ休眠が破れるので、掘り出さなければなりません。サトイモ3品種、サツマイモ5品種、モロッコインゲンやヒヨットも良いようです。借金なし大豆も雑草に埋もれましたが、何とか頑張って、開花しています。コマツナ、レタス、ハクサイ、カリフラワー、続いてダイコンやカブなどを播種しました。

日本村塾ゼミで、自然のなかでの暮らしや生業について皆様と一緒にもっと学び、山村に暮らす楽しみ、人々の幸せや誇りについて語り合いたいです。都市民はもっと自然に親しまないと、人間でないものAIの下僕になってしまいます。会員および配信を希望される方に「植物と人々の博物館」の公開活動ニュースなどをお送りしています。なお、自然文化誌研究会の全体の活動は会誌「ナマステ」季刊でお知らせしています。友の会会員になっていただければうれしいです。また、顔見知り信頼のクチコミで友人・知人に転送伝達していただけるとありがたいです。

○報告

1. **愛媛の民家再生活動への寄付：** ご寄付くださり、ありがとうございました。3万円を愛媛にお送りします。
2. **子ども料理実習：** 8月9日、冒険学校でアフリカ料理のクスクスを作りは台風のために中止しました。
3. **食農教育座談会1：** 食べ物、農業、教育などについて5人で語り合いました。日時：8月20日(月)午後3時～5時 場所：珈琲館
次回の予定は下記にあります。
4. **環境教育学会エクスカーション：** 8月27日(月)。「源流親子留学」見学ツアー(山梨県小菅小学校)：山村での学びと暮らしの視点から。参加者15名、雑穀栽培見本園、植物と人々の博物館などを案内し、学会創立資料保存などを紹介しました。
5. **「憲法に環境原則を追加する提案」**についての研究会：認定NPO法人環境文明21(憲法部会)で、8月28日(火)18時、JR大崎駅近く、東京都南部労政会館第一会議室、シンポジウムの準備について話し合いました。今後の予定は下記にあります。
6. **細川邸の改修工事が**始まりました。
7. **FAO世界農業遺産「雑穀街道」申請準備**について：9月6日、岡部良雄さんと一緒に丹波山村村長にお会いしました。小作駅まで送っていただいた車中を含めて、2時間ほどお話ししました。賛同については関係者と話し合い、検討して下さるようです。

○予定

1. **開館作業予定日：** 2018年9月3日(月)、15日(土)、21日(金)、28日(金)、10月5日(金)の予定です。
植物と人々の博物館/森とむらの図書室では、順次、図書・植物標本・資料や民具の展示解説をしています。ご利用くださるとともに、作業にご協力いただきたく、よろしくお願ひします。ご利用や協力いただける方は黒澤または木俣にメールしてください。ご都合に合わせて、上記以外でも日程調整します。場所は小菅村井狩集落バス停近く、細川邸の前、道の駅臨時駐車場の坂を下ってすぐです。 kibi20kijin@yahoo.co.jp
2. **食農教育座談会2：** 小川分水を歩き、武蔵野うどんを食べる会。日時：9月30日(日)午前10時～午後4時 集合場所：西武拝島線・多摩都市モノレールの玉川上水駅南口の近く、玉川上水のところ。参加費用は、各自の交通費とうどん代など。参加希望者は次のメールアドレスにご連絡ください。
kei-fkd@nifty.com
3. **「憲法に環境原則を追加する提案」**についての研究会：認定NPO法人環境文明21(憲法部会)で、10月9日(火)18時、JR山手線大崎駅近く、東京都南部労政会館会議室、シンポジウムの準備について話し合う。現在の提案書(憲法前文と第三章環境を加筆)は次のホームページで読めます。 <http://www.kanbun.org/2017/170824teigen/170824teigen.html>

<私見木俣> 日本国憲法の3原則は「国民主権(民主主義)、基本的人権(自由・平等)、平和(友愛)であり、これらを補強し、未来社会を楽しくするためには新たに環境原則条項を加えて、食料安全保障をめぐる環境保全を確実にする必要があります。これは平和を維持し、飢餓を避けるもう一つの方法です。

○環境文明21シンポジウム 憲法に環境(持続性)原則の導入を!! ～改憲論議は“9条問題”だけではない!～

この夏の猛暑・豪雨・大気の不安定などが示すように、地球環境が危機的に悪化し、貧困・格差など社会の持続性が危ぶまれています。しかし、現状の日本国憲法では、「環境」あるいは「持続性」について、一言も触れられておらず、次世代の子どもたちに、安心・安全で健

全な環境を残すことが困難な状況です。シンポジウムでは、家族・地域・国レベルでの食の安全保障、リニア問題などの観点から、憲法に環境・持続性原則を導入することの必要性について、皆さんと議論します。そして、今こそ、日本国憲法に環境・持続性原則の導入の必要性を訴えましょう。大勢のご参加をお待ちしています。チラシは添付しますので、多くの方をお誘いください。

日時：11月6日(火)、受付11時開始、11時30分～14時30分

場所：衆議院第一議員会館 第一会議室（定員50名）

主催：NPO 法人環境文明21

プログラム（予定）

- (1) NPO 法人環境文明21の提案についての説明 加藤三郎さん（NPO 法人環境文明21 顧問）
- (2) 話題提供「憲法に環境・持続性原則が導入されることで何がかわるか」
 - ① 家族・地域・国レベルの食料安全保障と環境
東京外国語大学 AA 研究所フェロー 木俣美樹男 さん
 - ② リニア新幹線の問題点
慶応大学名誉教授 川村 晁生 さん
 - ③ 諸外国の憲法における「環境」の位置づけ
中央大学教授 石野 耕也 さん
- (3) 全体討議 藤村コノエさん（NPO 法人環境文明21 代表）

4. **植物と人々の博物館** 学大探検部収集の民具類も整理・収蔵・展示しています。森とむらの図書室では日本の食文化・民俗関係を整理しています。順次資料のリストはホームページで公開しますので、ご利用ください。

5. **雑穀街道とFAO世界農業遺産** FAO世界農業遺産関連情報をお伝えするウェブページ『雑穀街道』では、雑穀街道普及会の賛同者を募っています。秩父からも賛同して下さる方が増えています。2年後にはぜひ申請できるように、賛同が広がるようにどうぞご援助くださいますようお願いいたします。FAO世界農業遺産ですから他地域や外国の方々も含めて賛同者を増やすように、一層のご助力をお願いします。下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。世界農業遺産などに関する紙ベースの資料・図書は「植物と人々の博物館／森とむらの図書室」（小菅村井狩）で閲覧していただけます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、『日本雑穀のむら』序章で雑穀の栽培史、第4章で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/milletn/jnmpilvil.html>

6. **藤野での雑穀栽培講習会**は駅前の畑を藤野倶楽部のご厚意でお借りして継続しています。藤野では伝統的にも、新規にも雑穀栽培している方が多くなってきています。上野原市西原の雑穀栽培プロジェクトもよく頑張っています。

7. **日本村塾の自給農耕ゼミ、民族植物学ゼミ、扶桑こくゼミ**は、希望者があれば日時・場所・話題などを調整して、読書会を開催します。都市農業や家族農業の図書文献は森とむらの図書室（小菅および藤野分室）で閲覧できます。関連の講演資料や研究報告はホームページで読めます。

8. **民族植物学第11号**をご希望の方に差し上げますので、木俣宛メールください。

第12号は編集中です。主な内容は、関東地方の雑穀農耕文化、先真文明への覚書5、書評2編などです。次の第13号からは電子出版のみにする予定ですが、ご寄稿を歓迎します。バックナンバーは第7号～第10号まで少しあり、希望者に差し上げます。第1号から第11号まで、すべての記事pdfは植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）で読めます。メールマガジンもすべて記録してあります。会誌ナマステは自然文化誌研究会のホームページで読めます。

9. 『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は民族・信仰について学びながら、南アジアについて、個人の現地調査の体験をまじえながら、自由に書いています。現在はスリランカとバングラデシュの雑穀を研究会に参加し、文献を読んで、学んでいます。『日本雑穀のむら』は第3章関東地方の雑穀文化複合、補論2主食の起源を近日中に公開する予定です。『環境学習原論』および『第四紀植物』、“Essence of Ethobotany”はまだ非公開ですが、書き進めています。これらは、下記の雑穀・民族植物学関係個人ホームページで読めます。引用して下さる場合は、順次必要に応じて改訂していきますので、「木俣（2018 未定稿）」としてくださるようお願いいたします。

自然文化誌研究会（東京都日野市）：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

ミューゼス研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：館長 木下善晴

日本村塾生・研究員：木俣美樹男（東京）、西村俊（石川）、藤盛礼恵（千葉）ほか

雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） npo-inch@wine.plala.or.jp

公式 HP : 自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

メールマガジン発行 : 木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

雑穀・民族植物学関係の個人 HP: 生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

写真



雑穀見本園、左からモロコシ、ハトムギ、キヌア、センニンコク、キビ、アワ、ヒエ、シコクビエ、陸稲、後ろには甲州トウモロコシ。左手奥のフェンスの彼方には、村人が毎年栽培しているモロコシの畑があります。



左は、縄文人が使っていた畑、今年は遷移が進み、一年草のハキダメギク、メヒシバなどが減り、多年草のサクライチゴ（他地域では絶滅危惧種）、ワラビの侵入に敗退しそうです。ワラビは高く売れますが・・・。右は、環境教育学会エクスカーションの様子。



左はカラスの食害を受けた甲州トモロコシ、右はハンガリー、ブダペストで売っていたバイオ食品（アワ、ソバ、イネの混合粉クラッカー）